

## 編集室から

9月号から3回連続となった富士登山のコラムも今月号で漸く完。7月下旬の登山でしたが、今は早晩秋。季節と申しますか、時の流れの矢の如しを改めて実感しています。そして、その時に支え合った仲間との絆。何にも換え難いものとなりました。

この間また、新しい出逢いがありました。小説家の高橋フミアキ先生が主催する笑顔の会に参加。素晴らしい方々ばかりでした。今月号の寄稿は、その笑顔の会からサトケンこと、佐藤研一さんに頂きました。サトケンさんはやや大柄で気が優しいと一目で判る素晴らしいお人柄です。この仲間たちとも新しいコトを始めてゆくことになるかもしれません。

そうそう、笑顔の会を主催されている高橋先生は、文章スクールも開催しておられました。過去形なのは、既に新規募集をしていないからです。ところが、そのラストチャンスに参加することができる幸運を頂きました。その後、先生と極少数で小説や随筆の書き方なども指導を受け始めています。「モノを書くということは、自分を磨くこと」と仰る先生の講義は奥が深く、安易に筆を走らせては置いてきた過去を恥ずかしく感じています。少しずつではありますが、より洗練された文章を書きたいと密かに決意しています。

毎号の表紙を飾る写真は、ほぼ一年前のものから選んでいます。今月号は、去年11月末に御世話になった。能登半島先端の珠洲市にある坂本旅館さん。里山に囲まれた自然豊かな敷地。廊下や洗面所には戸やガラスはありません。朝の冷え込みは厳しく、足は冷たいのですが、清しいことこの上ありません。冷暖房完備で鈍った身体や感覚・感性は、こういう体験でも目覚めるのではないのでしょうか。(は)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2009/11  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

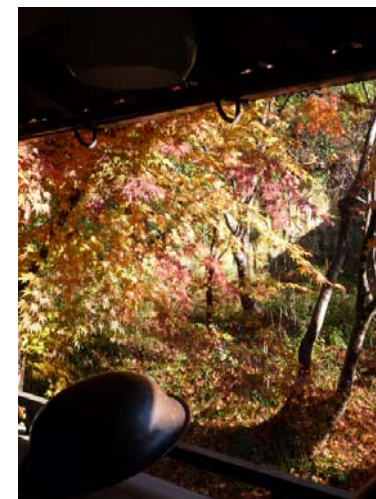
〒920-1167  
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217  
Fax 076-233-7375  
Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)



2009/11  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

## 霜 月



能登半島先端・珠洲市  
坂本旅館にて  
(廊下は外と仕切るガラス無し。  
自然との一体感は極上。  
一宿の価値在り。但し冬季休業)  
by hama

## 寄稿『一日一回笑顔をプレゼント』

佐藤 研一

「一日一回笑顔をプレゼントする会」と聞いて、どんな印象をもたれるでしょうか？

去年の十一月に発足したこの会で、ボクは支部長をしています。（まあ、立候補なんで、誰でもなれるんですが（笑））

「一日一回でいいから、誰かに笑顔をプレゼントしましょう」という単純な企画が始まったこの会、自分が入ってみて一日一回を意識し始める・・・、一回じゃなくなるんですね。面白いことに。自分が笑顔になるだけでなく、誰かを笑顔にしようと思いはじめると些細なことでもキツカケにしようとし始め、あいさつの大きさやさわやかさといったところからもの見方まで大きく変化しました。「うしか（ない）」「から」「も（ある）」に無意識に考えられるようになったり、小さなことに腹が立たなくなったりetc・・・

また、人って相手が笑顔になると自分つられて笑顔になってお互い幸せな気持ちになれるんですね。何日も記憶の中で幸せにひたれることもありませう。誰かに一日一回笑顔をプレゼントするのは、追及すると奥深いものもありますが、基本的には、誰もが、簡単に、何の準備もいらず、いつでも、どこでも実行できます。

しかし、言葉の威力とは恐ろしいもので、意識し始めるだけで自分自身が変わり、結果周囲が変わって自分に返ってくるという好循環のスパイラルが起ります。自己満足と言われようが、得することはあっても損はナシ。会に入らずとも出来ます。ぜひ、意識してみてください。たくさんの方の幸せに気づけると思っています。

ここで、冒頭の質問に戻ります。どうですか？何となくいい意味で好奇心が湧きませんか？

そうなんです。この会のことをメールの署名に入れるようになってから、いろんな人に「ステキな名前の会ですね」「どんなことをしているんですか」と聞かれるようになり、こんな話を多くの人に出来るようになりました。それによって意識する人が増え、ひとつでも多くの笑顔が増えればもっと幸せな世の中になると思いませんか？

特に入会条件はありませんので、勝手に名乗って実行してみてください。本当に周囲の景色が変わります。



【プロフィール】

（さとう けんいち）一日一回笑顔をプレゼントする会 副会長 兼 湘南支部長。日本メンタルヘルス協会基礎心理カウンセラー。ネットワーク地球村会 員。読書普及協会 映画『1/4の奇跡』を応援中。

## 濱のつばき 『1』来光』

（先月号に続く）起床後まもなく、昨日とは別な仲間が体調不良となる。自分だけ登頂を諦め、途中から下山するという。折角此処までできたのだからと、説得する。今度は全員一緒に、正に「にじる」ように登る。次々と団体客に追い抜かれてゆく。中には本当に親切な方々もあり、自分の酸素ボトルを差し出して呼吸の整え方を指導してくれた。今思い出して、有難さが身に沁みる。しかし、道は依然暗い。前日かせの疲労が脚を止める。晴れていたはずの天候も、じつとりとした冷たい霧に変わっていた。身体がみるみる冷えてゆく。体調不良を押して登る決意をした仲間が遅れる。その背中を押すように、後ろから歩く。決して手を貸すわけではないが、ヘッドライトでその暗い行く手を僅かでも照らしていた。

徐々にはあるが、辺りは明るくなってゆく。山頂手前に小さな祠があった。九合目と書かれていた。九合目は遥か下で過ぎてきた筈・・・。

なんなんだ此処は！

とうとうブーツと切れて、座り込んでしまった。朝日が差し始めていた。仲間の一人が手を引いて、起こしてくれた。何のために此処まできたのか。絶景の写真を撮るために、カメラまで新調したのではな

かったか。今思い返すと、恥ずかしい限りだが、その時は精一杯だった。こんなとき、人間の芯・真が顔を出す。残念ながらご来光は、途中で迎えた。が、其処からは眼下を一望でき、見事な絶景だった。西には遥かアルプスの山並みまで伺えた。この瞬間にすべての辛苦が飛んでいた。夢中でシャッターを切っていた。

程なく、山頂。一堂感涙に咽び、しばらく抱き合うのみ。その後、神社でお札を頂き、汁物で暖を取る。

富士は、下りも厳しい。下手をすると膝を痛めてしまふ。杖が一本しかないのは、この時不都合だと判った。一方の膝が痛み始める。またも次々と抜かれながらゆくり下山して駐車場に着いたのは、午後二時。途中の休憩も加えて、なんと十二時間歩きっぱなしだったことになる。予約時間を数時間遅らせても待っていてくれたフレンチレストランのランチは美味かった。その後の銭湯も有難かった。

下りた直ぐには、また登ることなど考えられなかった。が、仲間が来年も登るといい始め、いつの間にか頷いている自分に気づいた。一人では決して登れなかったと思う。同行仲間の何と有難いことか。しみじみと思うのである。（完）





## 『核兵器は本当に廃絶できるのか？』

(株)アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

新聞報道によると、「核不拡散、核軍縮に関する国際委員会」のまとめた報告書の行動計画では、2025年までに目指す核兵器の削減目標数は2000発以下ということです。

米国とロシアはそれぞれ500発まで、他の保有国にも削減を呼び掛けつつ、現在2万発ある核の9割削減を求めるとい話です。

これまで自分はこの手の問題を真面目に考えていなかったから知らなかったのですが、核兵器は何と今現在、世界中に2万発もあるとい話です。よくもまあ、作りも作ったものですね。

核兵器の最大の効果は、核抑止力ということらしいです。つまり、「もしもお前さんが核兵器を打ち込んだら、有無も言わず俺も打ち込むからな！！」そこんところよ～く考えておけよ。下手なことすんなよ。」というわけで、核兵器を持つことで、相手に核兵器を使わせない。これが核抑止力というわけです。

だったら、お互いに数発程度持てば話は済むはずなのですが、気が付いたらお互いへの不信感が拭えないため、核兵器製造競争が始まり、気が付いたらイギリス、フランスも作り、中国が作り、どさくさにまぎれてインドとパキスタンも作ってしまいました。旧ソ連が分裂してしまったので、おそらくウクライナとカザフスタン辺りも持っているでしょう。イスラエルと南アフリカ共和国も、限りなく黒に近い灰色保有国ということなんです。ということで、だったら俺もということで、北朝鮮が悪さを始めています。

こんな状態で気が付いたら2万発というわけです。この9割を削減するというのは、二酸化炭素排出量の25%削減よりよほど難しい話なのかもしれませんね。

ここでちょっとした思考実験をしてみましょう。2025年には9割削減ではなく、何と10割削減が実現できたとしましょうか。つまり何を間違ったのか、というか、各国の素晴らしい努力の結果、人類はその核兵器を全て廃絶しました。世界中どこを探しても核兵器の「か」の字もなくなりました。そう、ただの1発もなくなったのであります。

さてここで問題です。核兵器が全てなくなった世界人類にとって、最大の脅威は何でしょうか？この思考実験は、宇宙人が攻めてくるなどという荒唐無稽な話はなしにして、超現実的な思考で考えてみてください。

その答えは、人類は核兵器を無くすることはできても、核兵器の作り方の記憶を無くすることはできない、ということです。だからどこか1つの国、あるいは民間組織でも、テロ組織でもいいですが、そこが核兵器を造った瞬間、その国なり組織なりが、世界を支配することができるということです。

こんなことができないようにする対策は、僕の浅はかな頭で考えると、人類が世界警察を持つようになるということです。つまり世界各国の上に立って、配下の各国や各種諸々の組織が悪さをしないようにする警察権を行使できる組織を持つという方法です。

でもこれは、世界中の国や組織を支配する上部組織を作るといことだから、早い話が地球帝国を作るとい話になります。

これ以外に何かいい対策はあるのでしょうか？

## 『今、人のご縁は『デジログ』』

株式会社ヒューマネット 専務取締役 坂田誠

私は、この約4年間で2000社以上の岐阜・愛知の方々と御縁を頂き、今では地元の「つなぐビジネス」の事業展開を準備中です。これは一重に、御縁を頂いた皆様のお陰と、本当に感謝しております。

そんな中で、どうやってこんな人脈を増やしてきたの？という、お尋ね頂くのですが、私の場合、『デジログ』の一言に尽きます。

もともと、『デジログ』は岐阜のホームページ制作会社のキレ者社長からお聞きした言葉で「デジタル」+「アナログ」こそ、最適なコミュニケーションだ、という意味です。

まず、ご縁作りにおいて交流会・懇親会などのリアルな出会い。そして、その後の公私に亘る、交流。「アナログ」が、何よりも大事である事は、変わらない事実です。そして、ここにデジタルをプラスすると、恐ろしく劇的に、人的ネットワークが広がります。

例えば、出会いにおいては、ホームページ・ブログ・SNSなどのWebの仕組みでは、その人の職業・スキルは勿論、思想から趣味まで、全てを読み取る事が出来ます。そして、自分が出会いたい素晴らしい人々が、地元は無数にいる事に気付きます。更に、貴方が真摯に会いたいとアプローチすれば、簡単に出会える事が多々あります。

交流においても、その人がブログなどでイベントなどを情報発信していれば、それを見て、参加する事でリアルな交流深化につながります。更に、自分も情報発信を行い、それが感度の高い人に認められると、逆に先方から色々な提案を頂く事が普通に発生します。しかも、地位・身分は関係の無く、純粋に内容勝負！

デジタルの浸透は、出会い～交流までを、信じられない程、高速化・効率化しました。そして、地位も資金は無くても、意欲・素養・努力ある人であれば、短期間で認められる。それが、デジログの仕組みです。

その昔、携帯電話が普及し始めた頃、「わざわざ携帯で会話をするなんて、不健全だ」と異論を唱えられた人もあると聞きます。が、今では当たり前です。

是非、人との「アナログ」を大切にする人であるほど、「デジタル」を始めて頂いて、貴方の交流を広げ、本当に貴方の成すべき仕事を突き進めて頂きたい！そう思う所存です。

今職場では、これまで経験したことのない仕事量に苛まれている。そこに構想日本の「事業仕分け」なるものが襲ってきた。聞くところによると事業仕分けにおいて、自治体の勝率2割と聞く。自治体自らがやることではない、手法の変更、あるいは事業そのものをやる必要がないとのジャッジが下される。

今の小生の仕事である観光振興って行政がやるの？観光関係者が自らやる、あるいは観光協会なる組織をつくって地域全体で売っていくとまずは思う。

観光は観光業者だけのものではなく地域全体の産業に深く関わるし、経済効果も高い。そのところを理解してもらうような資料を用意せねばと思っている。本番は11月1日だ。

そんな様で、大魔神のたび記録を書いている余裕がない。そこで申し訳ないが、先日人前で話す機会があったので、その時の話の内容を紹介することでお許し願いたい。

\*\*\*豊橋技術科学大学建設工学修士課程を終了後、浜松の自宅に戻ると同時に静岡県庁に勤め始めた。今からもう26年も前のことである。公務員は三年を周期に職場を次々と異動していく、建築職で採用され、営繕課で県の公共建築を予算の中で設計及び建築工事の発注・監理、完成したものを施主である教育委員会等に引き渡すことを3年間、その時に一級建築士を取得、自宅を設計した。

その後、出先の2箇所の土木事務所で建築確認審査、県営住宅の建設、入居管理を行っていた。その時に結婚、平成3年から都市計画課に異動した。敷地の範囲で建築をすることをしてきたが、広く都市を計画する仕事に変わり、そこでは地区計画の推進や都市計画法改正による用途地域の細分化に伴う指定基準を全国に先駆け策定した。

そして、その後の人生を大きく変えていくことになった豊岡村に出向。今は合併し磐田市となっている。都市計画は行政がコンサルタントと考案審議会を経て、住民に向かってご理解・協力をと言う、ちょっと違うんじゃない、住民の参加をもっと早い段階で求めて、一緒に責任持って自らのマチを造っていく作業こそが大切ではないか！と言ってきた。このことを実践できた場が、この豊岡村だった。そのこともあって15年経った今でもムラ人との付き合いが続いている。

一年間の約束での出向に身であった小生は県の建築の現場に引き戻され、土木事務所で県営住宅の建設を担当、何やら「ふりだし」に戻されたことが、嫌だたまらなかった。愚痴をいろいろなところで振りまいていたら、長野県の浪合村の職員が「由布院が観光総合事務所の事務局長を公募している、応募してみたら」と案内の手紙を渡してくれた。

まちづくりの先進地「由布院」の名は既に知れ渡り、そこを目指す人は多いだろうし、選ばれることはないと思うけど、土俵に上がってみたいことには話が始まらないと、応募した。ところが選ばれることになり、県の勤務をどうするか？周囲には大変な迷惑をかけつつ、給料は由布院から得ることを基本に、二年間に限って出向の形をとっていただいた。コンプライアンスがやかましい今ではきっと無理だったかと思う。

由布院でのことは、この本「虫庭の宿」にこう書かれている。\*\*\*「由布院観光総合事務所」を立ち上げた平成2年は日本列島にバブル経済の嵐が吹き荒れていた。由布院も乱開発の波に直面する。由布院のような民間主導のまちづくりに限界と危機を抱き、旅館組合と観光協会を強化するためにつくったのだった。運営を仕切る事務局長は一時期を除いて地元以外の人を全国から募っている。第三者の冷静な目でないと真剣な地域改革は難しいと思うからだ。考えも利害関係も違う人たちの交通整理には、人間関係にしがらみのある地元の人ではとても無理。また、若い人を採用することで世代交代の布石を打つ意味もあった。平成8年から2年間は静岡県職員だった溝口久さんが事務局長に採用された。通称Qさん。当時38歳。身長188センチ、体重88キロ。「大魔神」のあだ名で由布院観光に手腕を発揮する。・・・中略・・・平成20年から静岡県観光振興室に勤務。「地域の魅力を高めないと観光地としてやっていけない」。由布院の住民と一緒に汗を流した経験を静岡県でも実践する。「由布院に来たのが人生のターニングポイント。全国にすごい人的ネットワークができました」。毎年最低一度は「帰省」されるQさんの笑顔を見るたびに、由布院の風が全国に吹いていることを実感できるのである。\*\*\*



最後に皆様に「忍耐力」の話を書かせていただく。

忍耐力とは、忍耐ができる力のことです。忍耐力が無ければ、人を理解することはとうていできない。忍耐力を高めるには、

- 1 他人のすることに簡単に判断を下さないようにすること。
- 2 他人を完璧な人間と思わないこと。

この二つを実践することである。

ただし、忍耐力とは、ただ耐え忍ぶという消極的なイメージではない。人生の目標や目的・志に、積極的に勇気をもって立ち向かっていく心構えなのである。

忍耐力のない人は、仕事に着手することはできても、投げ出すのも早い。忍耐力のある人こそが物事を成し遂げられるのである。

ご清聴ありがとうございました。

